



上高地 (2021.07)

縁—えにし—

安達 真魚

腐れ縁

いなくなったら また現れる  
この数年は この繰り返し

離れていても 噂がはいる  
お前と俺は 腐れ縁

人生相談お前に 聞いても仕方ない  
だけど今日も 中身はばれている

遠くでほざいた お前の言葉  
聞かぬふりして 聞き耳立る

何故か合ってる 視線の先  
お前と俺は 腐れ縁

照れ笑いは ジョークのつもり  
間違いはいつも お互い様

のがれても追ってくる  
逃げられても追って行く  
バカな奴だよ詰ってみても  
後始末はいつも俺の役目

なぜか合ってる 星回り  
お前と俺は 腐れ縁  
お前と俺は 腐れ縁



### 独りぼっち

今 ここで 生きている私  
どこから来て どこまで行くの  
独りぼっちの 自分がいる

止めどなく 流れる涙  
なんでだろう

故郷遠く離れ 帰るあてもない  
輝く日差し 雲は流れていく

今 今日も 命つなぐ私  
君と出会えた 裏町どおり  
この家この街 この空の下

思いはせる 独りの時間

なんでだろう  
なぜと問いかけても 誰も答えない  
流れる川のほとり 季節は移りゆく

いつのまにか時代は変わり  
何もかもが変わっていく  
遠い日の思い出も 闇の中に消え去っていく

今 ここで生きている私  
どこから来て どこまで行くの  
独りぼっちの自分がいる

### きっかけ

きっかけは 平凡そのもの  
同じ時代に生まれ 同じ時代に生きたこと

君はこの街を離れて 一人で暮らしている  
だけど今も信じている 心は繋がっている

この街の記憶は 消えてしまったのか  
遠くで想い続ける 僕を忘れて

I started loving you. きっかけは意味がない  
運命のいたずら 特別な二人  
恋人と呼ばれたかった もう少し大人になって

きっかけは 平凡そのもの  
同じ田舎に生まれ 同じこの世に生きたこと

遠ざかった二人のえにし 描けない二人の未来  
見上げる夜空の星は 遠くに輝いている

ぼんやりと見える 君のイメージだけ

この街の片隅で 忘れずにいたい

I started loving you. きっかけは意味がない

運命のいたずら 特別な二人

恋人と呼ばれたかった もう少し大人になって

きっかけは 平凡そのもの

同じ時代に生まれ 同じ時代に生きたこと

### 里山コネクション

飛び出そう 手をつないで 澄んだ青空

緑溢れる 心広がる里山へ

人混み離れて 緑の遊歩道

僕たちの夢 里山コネクション

木々の中に差し込んだ 光浴びながら

あふれ出す愛の言葉 みんなに届け

飛び出そう 手をつないで 澄んだ青空

緑溢れる 心広がる里山へ

風に揺れて 木の葉に染まる

僕たちの願い 里山コネクション

木々は萌え上がり 心育ませて

湧いてくる愛の絆 みんなに届け

飛び出そう 手をつないで 澄んだ青空

緑溢れる 心広がる里山へ

緑溢れる 心広がる里山へ

## コロナ世代

僕らはどうように 生きていくべきか  
何を守り 何を捨て  
何を繋いでいくべきか  
未来の君のために

過ぎた時間は 取り戻せない  
いつまでも埋もれては いられない

つらさ 悩み 心がすさんでも  
自分にエールを送り 力ふりしぼっていく

いずれは消えていく 災いのなかで  
何を考え 何を決めて  
何を片付けていくべきか  
未来の君のために

コロナ世代 悲しいレッテル  
今生きている時代 何かの縁

不安 気がかり 不確実なこと  
自分に負けないで ひたむきになっていこう

僕らに与えられた 課題に応えていく

夜が明けて もやが晴れて  
1日が始まっていく  
未来の君のために

いずれは消えていく 災いのなかで  
何を考え 何を決めて  
何を片付けていくべきか  
未来の君のために

## 運試し

あいつが嫌がっても 連れ出した六本木  
人混みにかまけて ささやきかけた

運試し さらけ出す 何もかも

打ち明ける カミングアウト 何もかも

知ったこっちゃ無い あんたの事情

大事な二人の 未来模様

Try our luck. 今日初めて

Try our luck. ぶちまける

時計気にしながら そぞろ歩くミッドタウン

ショーウィンドウ冬気配 タイムアウトもうすぐ

運試し 想い込め 何もかも

打ち明ける カミングアウト 何もかも

言わんこっちゃない あんたも歳さ

もうすぐ二人の アニバーサリー

Try our luck. 今日初めて

Try our luck. ぶちまける

運試し 決意込め 何もかも

打ち明ける カミングアウト 何もかも

どうってことない あんたの本音

似たもの二人の 道化ばなし

Try our luck. 今日初めて

Try our luck. ぶちまける

Try our luck. 今日初めて

Try our luck. ぶちまける

## 千葉ニュータウンでの時間感覚 —その4—

安達 真魚



風車とサイクリングロード（佐倉ふるさと広場）

### 自転車

コロナ禍も大分長く続いている。現在（2021年10月時点）、第5波もやっと収まりかけてほっとしている。この第5波のおかげで、せっかく抽選に当たった東京オリンピックもパラリンピックも無観客開催となつたため行けなくなった。政府は、感染を抑え込むため非常事態宣言を発出したり解除したりしたが、未曾有の困難とはいえ、そのコントロールの仕方が何と下手くそなんだろうと思った。政府としては、東京オリンピックまでにはコロナを抑え込んで無事に開催するのが目標だったはずであるが、大胆にもオリンピック期間に向けて新規感染者の大きな山を築いてしまったのだ。この件に関しては、政府も都道府県もそれでよく政治をやっているなどという思いがする。国政もいろいろと駆け引きがあるのだろうが、菅政権も結局はその責任をとって退陣となってしまったのも仕方ないことだろう。

コロナ禍で外出自粛の中、仕事もテレワークになった

のはいいのだが、外に出ることが少なくなったので、柄にもなく散歩をするようになった。しかし、散歩というのがあまり性分に合わなかったのか、この年になって自転車ならどうかと考えた。それで、昨年の夏の終り頃だが、自転車に関する知識はほとんどないにもかかわらず、クロスバイクを購入して家の周りを中心に乗り回すようになった。荷台もなく、通勤用に使うわけでもなく、全くの乗り回すだけの自転車だ。

自転車は子供のとき家業の手伝いで配達のために使っていた。今でいうママチャリだが、岡持ちに魚の刺身を入れて、それを客先に届けるのが役割だった。岡持ちを片手で持つので、片手運転になる。小学校高学年頃から高校くらいまでずっと続けていたので、自転車の運転にはそれなりの自信があった。余談だが、あるとき自転車での配達のことを知っていた娘が、「パパはウーバーだったんだね」と茶化すので、そのときは「そうだね」と答えておいた。ウーバーとは配達員のことだと思っていたのだ。ウーバーとは「ウーバーイーツ」という会社名の一部で、ウーバーイーツ配達員というのが正しいら

しい。いい加減に理解していたと反省した。しかし、言葉とはそんなもので、そのうちに「ウーバー」配達員の使い方も正しくなるときがくるのかもしれない。

高校を卒業した頃に自動車の運転免許を取得したが、その後自転車は全く乗らなくなった。配達は車で行うようになったためだ。1960年代後半に、サニーやカローラなど1000ccクラスの大衆乗用車が普及し始めた頃だったと思う。その後、車はずっと乗り続けているが、自転車には乗ることはなかったし、生涯乗ることもないと思っていた。しかし、最近になって数十年ぶりに自転車に乗る機会ができた。自作曲「日女若」用の動画を作成し、YouTubeにアップしてみようと画策したのだ。手賀沼の「道の駅しようなん」でレンタル自転車を借り、サイクリングロードを自転車でスマホをつけて動画を撮ろうとしたが、これが見事に大失敗だった。自転車に単純にスマホを取り付けても振動でうまく撮影できないということに加えて、借りた自転車が電動アシスト付きの自転車であまり乗りこなせず、真つすぐに走

れなかったのだ。他人から見ればたいしたことではないが、本人にとっては、大きなショックであった。いつかりベンジしなければと思い、それが自転車購入のもう一つのきっかけとなった。ちなみにその後ユーチューブにアップした「日女若」の動画には、自転車で撮影したカットは全く採用されていない。同じ手賀沼シリーズでアップした「カンナ街道」は、ドライブレコーダーで撮影したものだ。

自転車を購入するとき、その自転車をどこでどのように乗るかを最初に考えた。一つは、散歩の代わりであるので、歩道、遊歩道、公園内の通路を中心に自宅周辺を乗り回ることだ。もう一つは、自転車を車でサイクリングロードのあるところまで運び、そこでサイクリングを楽しむことだ。道路交通法では自転車は車道を走るのがルールであるが、交通量のある一般車道を走るとは極力避けようと思った。車運転時に、自転車を追い越すときなどにはいつも危険性を感じるものだ。車を運転している人にとっては共通の思いではないだろうか。自分が

自転車に乗ることで、車の運転手にそんな思いをさせたくないし、自転車に乗る自分自身も危険だと思っている。自分の自転車に乗る目的が、通勤・通学や業務でもないし、幼稚園の送迎でもなく買い物でもないなど、全く実用性がないものなので、なおさら車道はできるだけ走りたいと思う。

道路交通法の自転車の原則車道走行は、その走行ルールの方が事故を減らせるからのものであるが、これにはいくつかの例外がある。道路交通法施行令第26条には、自転車で歩道を通行できる者として、児童及び幼児（13歳未満）、70歳以上の者、車道通行に支障を生ずる身体障害者があげられている。したがって、70歳以上の者は歩道を自転車で走行してもいいことが法的に認められているのだ。そんなことで、気兼ねしながらではあるが、散歩代わりに自宅周辺を走行するときは、できるだけ歩道を走るようにしている。ただ、歩行者を最優先とし、歩行者がいれば最徐行を怠ってはならないことは肝に命じている。

自転車でニュータウン周辺を走っていると、些細なことでも、車の走行では気づかないようなことがいろいろとわかってくる。ちよつと離れたカフェとかパン屋さんを発見したり、公園の配置や遊歩道の続き具合などもわかる。建設中の住宅地であれば、進捗状況もわかったりする。白井市の桜台地区の小、中学校の建物の色は、桜色が使われていることなんかも気づかされたりする。桜台については、桜並木が年々立派になってきているが、満開のときの自転車走行は、爽快感溢れたものとなっている。

一方、サイクリングロードで自転車を走行させるときは、自転車を車に積んで出かけることになる。主に手賀沼、印旛沼方面だ。たまたま新たに購入した車がハッチバック車だったのでよかったのであるが、自転車を購入するときは心配で、実際にその自転車を積み込んでもらって確認した。後でわかったことだが、自転車でもスポーツ車と呼ばれている軽量のロードバイクやクロスバイクの多くは、現在所有しているハッチバック車に積載

できるようだ。それまで車はセダン車しか乗っていなかったのであるが、もしセダンだったら小口径にはなるが折り畳み自転車になつていたかもしれない。折り畳み自転車も結構楽しめるようだ。また、電動アシスト付きの自転車もいいと思うが、自転車の質量が軽量のクロスバイクなどに比較して倍以上あることが多い。なんとか積載ができて、積み下ろしに難渋することは容易に想像できる。自転車愛好家は、最初からハッチバック車というよりボックス車やワゴン車などを所有するのもかもしれない。自宅から離れたサイクリングロードなどを利用する人にとって、自転車の車への積載は共通の問題だ。自転車を交通機関を利用して持ち歩いて行先で乗り回す「輪行」やレンタル自転車を利用する場合は、車積載を考えるとはない。自転車の楽しみ方もいろいろあつていいと思う。

この1年あまり自転車に乗ってみて、意外と自転車愛好家が多い理由も実感としてわかった。自転車も仲間がいるともっと楽しいのかもしれないが、一人で空いた時

間に自分で選んだコースを好きだけ乗れるのも逆に特筆できるところだ。ジムや自宅で漕ぐエアークロスなどは違う楽しさがある。雨の日と夜は乗らないようにしているのが、天気予報も気になることが多くなった。健康面でもいいし、いろいろスケジューリングすることも多くなっているのが、認知症予防にもいいのではないかと思っている。

自転車については、この1年で随分と知識が深まった。それはいいのだが、思いあまって2台目にロードバイクを買ってしまった。たまたま新型コロナウイルスの集団接種を終わって出たところに自転車屋があり、ちよつと店内を覗いたのが悪かった。ちよつとやりすぎたと反省している。ロードバイクはスポーツ用向けで、本来スピードを競うものだ。したがって、余計なものをつけず、スタンドさえもつけないのが常識なのだ。知識は深まっているものの、そこまでは気がつかなかった。やはりそれぞれの世界があるのだと痛感した。スタンドはなんとかお願いしてつけてもらったので、ロードバイクで歩道を走って

いるのも、ひとつの個性として許容してもらおうと思う。そんなことで、高齢でも自転車を始められる方も多いと思うが、誰にでも無条件で薦められるものではないことは承知している。事故が怖いからだが、被害者にもなるし、歩道を走っていけば加害者にもなる。車の運転も同じではあるが、いつ事故に遭遇するかわからず高齢者ほど危険性は増す。最低限、自転車保険のような傷害保険には加入する必要があるだろう。自分も自転車保険には加入したが、事故には十分注意しながら楽しんでいきたいと思っている。

最後に、自分の少ない経験のなかではあるが、比較的近場のサイクリングコースを紹介しておく。印西市でもいくつかのサイクリングコースを紹介しているが、基本的には車道走ることも前提とし、コースも比較的長いので、私を含め初心者には難しく思える。ここで紹介するコースは、コースの近くに駐車場があると、駐車場まで自転車を運ぶ車があることを前提としている。

### 【手賀沼サイクリングロード】

手賀沼南岸には、柏ふるさと公園から手賀沼フィッシングセンターあたりまで、かなり整備されたサイクリングロードがある。北千葉導水事業に伴って整備されたものであるらしいが、サイクリングロードは幅広で、自転車と歩行者がラインでセパレートされたものとなっている。道の駅しようなんをはじめ、要所には休憩所とトイレがあり、このあたりでは、最高スペックのサイクリングロードになっている。主な駐車場として、柏ふるさと公園、道の駅しようなん、手賀沼フィッシングセンター対岸のそれぞれの駐車場が利用できる。他にもサイクリングロード沿いには小さな駐車場がいくつかある。

手賀沼北岸にも、手賀沼公園から手賀沼フィッシングセンターまでサイクリングロードがある。手賀沼公園より西側は、一般車道または歩道になるが、北岸、南岸合わせて利用すれば手賀沼（北柏〜フィッシングセンター）を一周することができる。約20kmのコースだ。北岸の主な駐車場として、北柏ふるさと公園、手賀沼公園、手賀沼親水広場・水の館、手賀沼フィッシングセンター

のそれぞれの駐車場が利用できる。

### 【印旛沼サイクリングロード】

印旛沼サイクリングロードは、八千代市保品の阿宗橋から印西市下井近くの酒直水門あたりまで、新川、西印旛沼、北印旛沼を結ぶ全長約22kmのサイクリングロードだ。高橋尚子や有森裕子がトレールニングに励んだ金メダルジョギングロードが含まれる。また、西印旛沼と北印旛沼を結ぶ人口峡谷の印旛捷水路の北西側の側道も含まれている。主な駐車場は、チュウリップと風車で有名な佐倉ふるさと広場とトイレに描かれたバンクシーの似せ絵？で注目された双子公園だ。佐倉ふるさと公園は、桜やチュウリップの季節になると有料になるようであるが、少し離れば、周囲には無料で駐車できる場所もいくつかある。このコースは全体的にトイレ、休憩所は少なく、道幅もやや狭くなるところもある。

桜が満開のとき、佐倉ふるさと広場、船戸大橋間を走行したことがある。天候不順で雨の合間に走行したためコースを独り占めた状態になり、何キロも続く桜のト

ンネルを邪魔もなく眺めることができ、幸運な思い出になった。

### 【新川サイクリングロード】

新川サイクリングロードは、印旛沼サイクリングロードと花見川サイクリングロードを結ぶサイクリングコースだ。新川沿いの八千代市保品の阿宗橋から八千代市村上の村上橋あたりまで、距離は約7kmだ。駐車場は、道の駅やちよ、またはやちよ農業交流センターになる。道の駅やちよとやちよ農業交流センターは、歩行者用の橋で行き来できるようになっているが、サイクリングの駐車場としては、やちよ農業交流センターがよさそうだ。ニュータウン中央駅あたりの車でのアクセスはここが一番いい。ニュータウンからちよと離れてサイクリングを楽しむには手頃である。歩道を利用して自転車だけでも直接行けるが、一部交通量の少ない車道を利用することになる。サイクリングコースは、路面が荒れているところや未舗装で砂利道になっているところもあるので注意した方がいい。

### ニュータウンと防災

ニュータウンの街並みは整然としていて気持ちがいい。個人的にこの整然さはきらいでない。新たに計画して開発された街なので、交通、上下水道、ガス、電気、通信などの公共インフラが整い、公園、図書館などの公共施設や多彩な商業施設など生活しやすい利便性の高い街になっている。一方で、少し雑多な昔からの街並みがいいと思っている住人も沢山いるかもしれない。

私自身、学校に通うために上京して東京都新宿区のアパートに住み始めて以来、川崎市、横浜市、千葉市、船橋市、柏市、印西市へといくつかの街を転居している。当然のことながら、それぞれの居住地には愛着があるし、それらの周辺の街並みはおおよそ認識しているつもりだ。ただ、どこの街でもそうだが、街並みは時間の経過とともに変ぼうしている。激変しているといってもいいかもしれない。上京当時住んでいた新宿のAパートは西口公園方面にあり、新宿西口の最初の高層ビルである京王プラザホテルが建設中で、まだ淀橋浄水場跡が見えて

いた。最近になって昔住んでいた近くの道路を通ったときのことであるが、その道路が4車線の道路にもかかわらず、すごく狭く感じた。やはり、近くには高層ビルが林立し、他にも多くの建物が建ち並んでいるからだと思う。東京の他の通りでは、甲州街道や環八あたりが思い出のある通りだがやはり狭く感じる。以前に訪れたことのある街や通りは大抵このように感じるものようだ。

東京に対して、周辺の都市の駅周辺の街並みや街路については、あまり良い印象は持っていない。何かゴチャゴチャしているし、その周辺の道路は渋滞も多い。都市はそれぞれ異なる開発の歴史があり、開発された当初の計画が基本となって街並みが形成されている。再開発も何度か行われているだろうが、抜本的な都市整備の改良は行い難いと思う。これらの街には鉄道が通り、駅があつて利便性が高いのであるが、これによって皮肉にも街が分断され、なぜかどこも駅周辺の交通の流れは悪くなっている。以外にも街並みや街路が整備されているのは東京都心部である。日本橋を中心に古くから放射状に街

道が整備され、それらを同心円で繋ぐように環状道路が整備されている。古くは明暦の大火、関東大震災、東京大空襲などで大きな被害を受け、大規模かつ計画的な復興があつた機会が何度かあつたことも大きな要因なのだろう。とにかく、江戸幕府開設以来現在まで、政治の中心がここにある、社会基盤全般に対してお金の使い方が他の地方とは常に格差があつたと思えば納得がいく。

しかし、首都高と地下鉄（東京メトロ、都営地下鉄）については、歴史的にはどちらも比較的新しく開業しているとはいえ、ランプの乗り継ぎ、乗り換えが大変複雑なものとなつている。たまに東京に出かけると、いつも「お上りさん」状態になるが、このことも大きな要因になつているように思う。

千葉ニュータウンの開発規模は1930ha、計画人口は当初の34万人から14.3万人に減少しているが、多摩ニュータウンや港北ニュータウンに次ぐ大団地だ。事業期間は昭和44年〜平成26年で、すでに終了しているが、計画区域外も含めてまだまだ発展の余地が残さ

れている。このような近年新しく開発されたニュータウンは、新しい法律と開発技術によって最初から基盤整備されているので、整った街並みが形成されている。

首都圏の東側（千葉県、茨城県）で、年代が新しく、規模の大きい開発地で気になるのがいくつかある。例えば、筑波研究学園都市（28400ha、計画人口35万人）、幕張新都心（522.2ha、計画人口18.6万人（就業、居住計）、成田ニュータウン（487ha、計画人口6万人）、竜ヶ崎ニュータウン（761ha、計画人口7万人）、越谷レイクタウン（225.6ha、計画人口2.2万人）などだ。筑波研究学園都市の規模は別格であるが、それぞれの開発地の性格は異なるものの、どこの開発地でも区画が整理され、道幅も広く、車を運転していてもすっきりした気分になる。

日本は有数の自然災害の大国だ。風水害、地震、津波、火山など、なんでもありだ。千葉ニュータウンは、地盤がよく地震に強くとよく言われている。データセンターとしての立地もいいらしい。また、台地中心なので、洪

水とかにも強く、津波や火山もない。ある程度以上の規模のニュータウンであれば、災害に対して一定の対応が考えられていて、全般的には災害に強いといえる。最近とくに水害の報道が多くなっていることが気になるが、このニュータウンに住んでいる限りでは、水害の危険にさらされる恐れを感じることはあまりない。

人類誕生以来、人は水がないと生きていけないので、河川、湖沼など水辺の近くで暮らしていた。しかし、あまり近くにいと降雨時に洪水などの水害にあう恐れがあるので、水辺から一定の距離をおいていた。例えば、千葉ニュータウン周辺の集落であれば、中世までは稲作は谷津田中心で行われ、居住地は、台地上にあるのが普通だった。それも、谷津田に近い台地のへりが多く、言い換えれば水辺に近い台地の上である。近世になってからは、新田開発が奨励され、干拓した土地での新田開発が中心となり新田村が成立する。干拓で成立した新田村の集落そのものの多くは干拓した場所かその近くに形成されるため、結果として水害を受ける恐れが高い住居

になってしまっている。干拓地は地盤的にも好ましくなくないので地震にも弱い。当時成立した新田村もそれぞれ今の小規模なニュータウンのようなものだが、これまで何度となく水害には悩まされ続けてきた。新田開発による経済発展を求めた見返りによるものだ。印旛沼、手賀沼の干拓事業は戦後になってやっと本格化し、十数年を経て完了し、ほぼ現在の形に至っている。水害の恐れは随分と少なくなっただろうが、全くなくなったわけではない。また、この干拓事業と周辺地域の急速な都市化によって水質の汚染問題が残され、水質浄化に向け継続的にさまざまな取り組みがなされている。

地図帳を広げてみればよくわかるが、人口が集中するのは、平野部か盆地、山岳部でも河川沿いあたりである。これらは概ね平坦といえる場所で、多く居住地は河川や湖沼とセットとなっている。世界四大文明にしても文明の発生地は大河とセットだ。しかし、千葉ニュータウンのように台地上に開発された街は、河川や湖沼とセットになっているわけではない。ニュータウンの区域内ある

いは周辺には、中小河川はあったが、それらは区域から外されているか、埋め立てられている。上水は、利根川から揚水された水が供給されているし、排水には排水管が敷設されている。昔だったらできないことが現代だからこそ新しい技術を使つて、台地上のニュータウンが開発された。ちなみに、近世の江戸は、武蔵野台地上であつたため水不足が問題となり、多摩川から分水させた玉川上水を利用して人口の増加に対応したことは有名である。玉川上水は武蔵野台地の背景に西側の山地があつたために実現できた。

日本でもとくに降雨の多い河川近く地域やハザードマップで示された地域などでは、少しでも多くの雨が降りそうであれば、いつも非難の準備をしなければならぬ。そんなことが毎年のように繰り返されている。何か根本的に解決することができないのかといつも思う。自然災害が発生するようなどころには住まないようにすればいいだが、すぐに移住できる人は少ないというより、そのように考える人もあまりいないかもしれない。ハザ

ードマップで示された地域などを全体的に移住させるというようなことを発想して計画するのは、本来政治の役割で、そのように啓蒙し、制度化、法制化しないと、大規模移住のような大胆な構想は実現しない。

自然災害から人の命を守ることに関しては、改めてこれまでの多くの事例を考えてみる必要がある。自然災害対策を主目的としたニュータウン開発があってもいいと思う。ニュータウンを開発することに、都市のベッドタウンとして機能を求めるだけでなく、災害対応や過疎化対応、さらにスプロール化した既存市街地の再開発対応であつてもいいはずだ。いずれにしても、これらのことは百年から数百年かけて国全体を作り直すくらいの未来志向の事業になり、経済を活性化させる原動力にもなる。まずは発想することが大切だと思う。

## 遊びや趣味の経済学

千葉ニュータウン在住の知人で、ニュータウンに移住

した理由が「ゴルフをやるにはこの土地がいい」と言っていた人がいる。ニュータウンに住んでいる人のなかには、もともとこの土地に縁もゆかりもない人も多いが、この人もその一人だ。家族を抱えている場合、転居の理由はそれだけということはないだろう。しかし、手頃なゴルフ場へのアクセスがいいことがこの地へ転居を決断するに至った大きなトリガーになっていることは、彼が明言しているのだから本当だろう。近くには習志野、総武、船橋、泉、八千代などのゴルフ場があり、さらに千葉県北東部、茨城県南部あたりのゴルフ場へアクセスするのも便利だ。彼は茨城県の江戸崎カントリー倶楽部の会員であつたが、そこをやめて船橋カントリー倶楽部の会員になつている。おかげで、私自身も自宅から一番近いこのゴルフ場でのプレイを何度か楽しませていただいている。クラシックで、手入れの行き届いた林間コースだ。ゴルフ場が近いということは、利便性が高まり移動コストを低く抑えられることが大きなメリットであるが、一方で、以前の会員権を手放し、新たに会員権を取得したことや、1回あたりのプレー代も高くなつて

いると思うので、金銭的な負担は大きくなっているだろう。

日本国憲法第25条第1項には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と記述されている。スポーツを含めた遊びや趣味（以下「遊びや趣味」と呼ぶ）と呼ばれているのは、この文化（カルチャー）の部分に属するもので、人間だけが特別に持つものだ。寝て、起きて、食事をし、働くだけが単に生活するだけでは人間とはいえない。健康で文化的な最低限度の生活は国民の権利なのだ。とはいっても、遊びや趣味とはどのようなことなのかを定義づけるのは難しい。例えば、寝ること、食事すること、あるいは働くことが趣味だという人も多い。またパチスロや競馬などのギャンブルは、遊びや趣味ではなく生活の糧としてやっている人も多いかもしれない。いずれにしても、eスポーツとか新たな切り口の遊びや趣味も出現しており、どんどん多様化している。

遊びや趣味は、それを職業としない限り、通常は一方

的にお金がかかるものだ。逆に個人レベルで寝食などの実生活の支出以外にお金がかかるのが遊びや趣味だといえる。ただ、遊びや趣味の延長でも、そのスキルが高まり、プレイしたり、人に教えるようになるそれは職業となりお金をもらえる側になる。いわゆるプロだ。それぞれ遊びや趣味の世界では、プロのなかでも突出したトッププロが出現することが重要で、その世界の振興や経済に寄与することは周知のことだ。最近では将棋の藤井聡太などはいい例である。プロと言っているのかかわらないが、地域のパチスロのある著名ユーチューバーが店にくると、それとなく優遇されたりする話を聞いたことがある。遊びや趣味にお金がかかっているということ、裏を返せば、これでお金を稼いでいたり、職業にしたりしている人も沢山いるということだ。ただ、このパチスロの話はあまりいい例でないかもしれない。

ゴルフもひと頃に比べればプレイ代なども安くなってきたが、それでも費用はかかる部類の遊びや趣味である。以前、ゴルフをプレイする上でどんなものにお

金がかかっているか考えてみたことがある。すると、主だった費目としていくつかあげることができた。この費目にはある分類パターンがあつて、他の遊びや趣味でもこのパターンは同様にあてはめることができることを発見した。遊びや趣味の種目の違いやケースによって、費目別の支出具合が違うだけである。どの遊びや趣味にも適用できる、主な分類パターンを紹介してみたいと思う。

#### 【施設費用】

遊びや趣味は、何をやるにも場所が必要で、その場所代、施設費用がかかる。ただ、昼寝、読書、テレビゲームとか自宅でできるものは、場所代はかからない。施設にかかわる費用はほぼ0（ゼロ）といつていい。テレビ視聴やネットサーフィン、また映画鑑賞でもテレビやネット系で視聴するものであれば同様だ。高コストの遊びや趣味は、施設費用の割合が大きいことが多い。この施設費用は、利用するときその都度利用料を支払うことになるが、会員になつて入会金や会費を支払うパターンも多い。施設によって徴収の仕方が異なる。ジムなどのよ

うに入会金や会費が必須の場合もある。その都度支払う利用料は、施設によって異なることもある。ゴルフであれば、プレイ代、テニスであればレンタルコート代、スキー、スノーボードであればリフト代だったりする。パチスロ系ならば、多分貸し玉料になったりする。囲碁、将棋、麻雀であれば、それぞれ碁会所、将棋センター、雀荘の料金だったりする。最近ではこれらが通信対局だったりするので、その場合はシステム設備に対する料金になるかもしれない。一般にこれらの施設費用は、公的な施設であれば料金は控えめになるのが普通だ。

#### 【移動費用】

移動費用は、施設費用と切り離せないものだが、プレイすべき施設が居住地と離れていればどうしてもさまざまな交通費が発生する。電車代や維持費を含めた車の燃料費、高速料金など、いわゆる旅費・交通費だ。趣味が旅行であれば、費用の大半は宿泊費を含めた旅費・交通費ということになる。スキーやサーフィンなど好きで、その近場に移住してしまっている人もいる。移動費用と時間を抑えるためではあるが、それはそれで移住などの

費用が大変であろう。自宅での昼寝や読書のように施設費用がかからないものは、移動費用は必要ない。

#### 【道具やツールの費用】

遊びや趣味は、何をやるにしても何らかの道具やツールが必要になることが多い。たとえ昼寝が趣味であっても、愛用のソファーとか枕が必要になる。ただ、囲碁、将棋、麻雀、パチスロなどのように、施設の道具やツールを借り、施設料に含まれた形でプレイする場合もある。読書であれば、本そのものがようになる。昨今ではデジタルで読むことも多いが、その場合は、デジタルデータとパソコンやタブレット端末などが必要になる。本は公立の図書館で借りれば費用は発生しない。

道具やツールは、遊びや趣味を励む本人にとっては非常に大切なもので、これに費用をかける人は多い。戦国時代の武将も茶道具の購入には熱心だったようだ。何か上達しようとすればいい道具がほしくなるし、逆にいい道具をそろえれば上達も早まるというものだ。絵を描く人であれば、筆や絵具にお金をかけるだろうし、音楽が好き人は高額な楽器を購入したりする。筆者の知人に

も数十万以上もするギターの所有者が何人もいる。パソコンの例だが、通常の仕事用のパソコンのスペックは意外と低くていいが、ゲーム系のプレイをするには、スペックの高いCPUやグラフィックスボードなどを使用するため高額なパソコンとなる。遊びだからこそお金をかけられるのだ。筆者自身の話で恐縮だが、学生の終わり頃に、囲碁に夢中になったときがある。そのとき、本榎（かや）の碁盤と蛤碁石が無性にほしくなったりしたものだが、その頃はそんなお金はなく購入できていない。今だから何とでも言えるが、あのとき購入できていたら、囲碁ももっと上達していたのではないかと思ったりする。

#### 【ウェアなどの費用】

外出して行う遊びや趣味の場合、このウェアなどの費用は意外と重要で、購入費用も馬鹿にならない。いつも同じものを着るといってわけにいかないのが、季節によっても変わるので大変だ。とくにスポーツ系では、プレイするときシャツ、スラックス、帽子、ヘルメット、靴、さらにプレイ後の着替えなど、プレイする日

ごとに考えなければいけない。また、スポーツ系でも種目が違えば、ゴルフウェア、テニスウェア、スキーウェア、サイクルウェアなど着るものの言葉さえも違ってくる。

絵画、書道、音楽、演劇など趣味で発表会などを伴う場合も、そのときに何を着るかは気を遣うだろう。また、茶を趣味にする人にとっては、茶事そのものより茶会にどのような服装で行くかの方に気を配っている方が多いのではないだろうか。茶会などの経験はないが、容易に想像できる。女性の場合、和服で茶会ということになると、和服代の方が大変そうだ。

#### 【レッスン費用】

遊びや趣味には、それぞれ上達のための技術を教えることを職業としている人が多くいる。いわゆるレッスンプロだ。ゴルフスクールやテニススクールの教師、ピアノ教師やカラオケの教師などがい例で、種目は数多い。カルチャースクールなどは、この教師の働きによって成り立っている。実際にプレーすることを本職にしているアーティストやツアープロなどが兼業している場合も

あるだろう。入会金、会費が取られるのが普通だが、この場合使う施設などは込みで提供してくれることが多い。何か始めるときや気軽に上達したいときなどは、お金はかかるがこのようなスクールに入会するのがつとりばやい。施設を予約したり、プレー相手を調達したりせずに、指導を受けながら楽しめる。

レッスンにかかる費用をあまりかけたくないのであれば、種目にもよるがサークル系の会に入る手もある。ただ、手取り足取りの個別レッスンなどは期待できないかもしれない。

以上、遊びや趣味の費用について主要な分類パターンを述べてきたが、自分の好きな遊びや趣味について、その費用の分類を考えてみるのも面白い。そして興味のある遊びや趣味があれば、必要な費用を概算の上、積極的にその遊びや趣味をトライしてみたいのではないだろうか。

ついでに、千葉ニュータウンでの遊びや趣味に関して活動のしやすさなどを考えてみたい。ニュータウンなの

で各種公共施設も整い、利用しやすいように思う。スポーツ系ではテニスのコートなども予約しやすいだろう。ゴルフについては前述したとおりであり、ゴルフ練習場も近場に行くつかある。ただ、この5月にアリスゴルフガーデンが閉店してしまったのは残念だ。

店舗が多いのもこのニュータウンの特色であるが、何か道具を揃えようとするときもいい環境にある。大型スポーツ店もあるし、ゴルフショップもある。ジョイフルホンダのJOYFUL・2は、趣味の専門店と謳っているように、規模、品揃えで群を抜いている。銀座の伊東屋は文具中心の店舗で有名だが、それに比肩するくらいの衝撃がある。カルチャースクールも、ビックホップ、ジョイフルホンダ、カインズ、イオンなど十分すぎるくらい充実している。習いたい人もいれば、教えたいたい人も沢山いるのだろう。一方、昔ながらの基会所、将棋センター、雀荘のようなものはみかけない。この類は、オンラインでやるのが主流になっているのだろうか。遊びや趣味と呼べないかもしれないが、風俗系の店舗やバーとかクラブも存在しない。やはり、住宅地が基本なのでそ

のような店舗はつくれないのだろう。

千葉ニュータウンはこの土地に適した遊びや趣味もある。一応内陸なのでマリンスポーツなどにはあまり適していない。ただ、印旛沼、手賀沼、利根川など水辺に恵まれているので、釣りをやる人は多い。ボートの係留地も多く、釣り目的のボートが多そうだ。周辺には広大な里山もあるので、サバイバルゲームを営業しているところや、ラジコンカーのレース場、バイクのオフロードダートコースもあつたりする。

音楽鑑賞についてだが、この地はあまり大きなライブイベントがない。一流とか、有名どころのアーティストの全国ツアーの会場にはなっていない。千葉県であれば、千葉、市川、松戸あたりの会場に負けている。大きな会場がないことと、東京から少し遠いのが原因だと思う。そもそも人気のあるアーティストはチケットをとることが難しい。それでもこのコロナ禍が収まればだが、何とかチケットを確保して、高額運賃ではあるが北総線を利用して好きなアーティストのコンサート鑑賞に出かけるのも一つの楽しみ方である。

いずれにしても、ある程度の体力、時間、お金さえあれば、何か新たに遊びや趣味を始めようとすることもできる。文化は人間らしさを維持するための消費活動であり、最低限お金がかかることは仕方がない。あとはやる気の問題で、年齢はあまり考えないようにした方がいいと思う。「これからの人生で、今が一番若い」(永六輔)し、「あの頃より、今のほうがずっと若い」(ボブ・ディラン *My back pages* より)のだ。できれば仲間はいた方がいいが、独りで楽しめることも沢山ある。それと、特別な費用をかけなくて一番いいのは散歩である。周辺には散歩に適した里山や谷津田が沢山ある。なかでも北総花の丘公園は最高だ。散歩のついでに、植物の観察やバードウォッチングなどは、意外と高尚な趣味となる。

## 田んぼ

ニュータウンの周辺には河川、湖沼、里山など多くの自然が残されている。ニュータウンの区域外では、まだ

まだ農業を営んでいる集落も多い。自宅の近くを散歩や車で移動しているときはいつも街と自然が共生していることがよくわかる。農業といえば、主に水田か畑でということになるが、生産場所は、畑が台地上、水田は水辺の谷津田などの低地とおおよそ区分できる。今回はこの田んぼについて考えてみる。

毎年桜の季節が終わるとすぐに田植えの時期になり、田植えが終わると稲は成長して水田は緑のジュータンになる。夏がくればそろそろ稲穂が実って稲刈りの時期がすぐにやってくる。稲の成長は、季節の移り変わりの早さを日常的に実感させてくれるものの一つだ。都心のような街中で暮らしている人たちはこのような実感はあまり湧かないのではないだろうか。

田植えが終わってから水田が緑のジュータンになるころに利根川や手賀沼、印旛沼の近辺に出かけるときに見かける水田の大きな広がりには壮観である。小さな孫を車に乗させたとき、この景色が目に入ると「すごい田んぼ」と言って喜ぶ。確かにすごい田んぼなのである。ここは

干拓で陸地化されたので水田も規模が大きく、有数の穀倉地帯になっている。中小河川沿いの谷津田とは明らかに規模が違う。

以前より、この田んぼについて不思議だと思っていたことがある。それは田んぼの水のことだ。毎年稲刈りが終わると、田んぼは次の田植えが始まるまで乾いた状態になる。しかし、田植えの時期になると、田んぼはいつの間にか水で満たされる。水はどこにあるのか、どこに隠されているのか、まるでマジックを見ているようだ。田んぼで利用する水については、昔から高度に管理されているのだというのは、何となく頭ではわかっているようでも、道路側から移動中に田んぼを眺めているだけでは全然わからない。多分、稲作農家に生まれた人などにとっては、なんてことのないことかもしれない。

日本の水田稲作は弥生時代に本格的に始まったといわれているが、このころから人々は稲作のできる土地を開拓し、そして土地を争う時代に入ったということが日本の歴史の根底にあった。その後、一部の時代を除いて争いは各地で頻繁に発生し、平和な時代であっても常に

争いの火種を抱え、それはおおむね戦国時代が終り江戸幕府によって天下統一されるまで続いたといえる。そして、そのベースにあるのが「田んぼ」であり、これが基本的な生活基盤、経済基盤であったからどうしても人間の本性として争いが避けられなかった。古い時代であっても、米だけが生活必需品ではなかっただろうが、米作は常に基本であった。

この地域での争乱の顕著な例として、平忠常の乱（西暦1028年、平忠常は上総広常、千葉常胤などの先祖）がある。この乱は、原因、脈絡、収束の仕方など理解しにくい事件であったが、結果的に房総三国（下総、上総、安房）は「亡国」の状況になったという。上総国では乱の3年後でも本来の田数約2万3千町のうち耕作されたのは18町にすぎなかったという記録がある。このとき房総の荒廃はすさまじいものであった。「田んぼ」を耕作できなければ人は住めなくなるということを端的に示した興味深い大規模な争乱だ。その後税の減免などの施策によって人々の帰国を促し復興にあたったが、元に戻るには相当な期間を要したであろう。皮肉にもその

後の房総はこの忠常の子孫たちが支配を強めていくことになった。

一方、「田んぼ」は、その後も開拓され続けてきた。少なくとも明治期の新たな産業振興が始まるまでは、新田開発は経済基盤拡大の中心だった。

新田開発は常に水を制御することと一体となつて行われてきたというのが重要である。この地域の江戸期に入ってから新田開発は、利根川東遷事業以降になつてから加速している。流路を確保するために堤防を整備し、水抜きをしながら、陸地化、耕作地化していった。治水と利水は一体化している。これらの事業のなかで、より水制御を効率化しようとして新たに新利根川を開削して河道を作り、利根川の本流を通そうとしたが失敗に終わっている。あまり直線すぎて河道幅も十分でなく、逆に洪水を引き起こしてしまった。本流は元に戻されたが、それでもこの新利根川は陸地化促進の水抜きとして、また用水確保のための水路として今でも十分役立っているはずである。なお、江戸期には、干拓した広大な水田

開発の一方で、狭小な谷津でも水田開拓が行われ、印西市内でも幕府領のいくつかの新田村ができています。

稲作が始まって以来、米の生産は経済力、財政力の基盤であり、米の生産石高は、その地域のパワーの源泉だった。しかし、時代とともに主役の座を他の産業に譲ってしまうことになった。現在では、全国の米の産出額は、1.75兆円で、実質GDP(5.5兆円)の個人消費30.8兆円に比較してもその5.7%に過ぎないのだ。(米の産出額は2017年度、実質GDPは2018年度で、それぞれ概算額)

先人が命をかけて必死で守ってきた米作も今では経済的な役割としてはそこまで低下している。経済的な価値が他の新たな産業に移り変わっており、とくに、IT、通信、ソフトウェア、金融サービスなど目に見えないものの価値が増大している。

近年は、大規模営農に適した水田が開拓されている一方で、狭くて効率の悪い谷津田を中心に耕作放棄地など

かと感じた。

も増えている。この周辺でも例外でなく、明らかに耕作していないと思われる箇所を多く見かける。毎日新聞の記事（2021年6月22日）からの引用であるが、西市の耕作放棄地であった谷津で、水田を復活させるための実験的研究をされている方がいる。国立環境研究所気候変動適応センター室長の西広淳さんだ。この記事のなかで、印旛沼流入河川流域の谷津の土地利用の変化を紹介している。1946年に調査した谷津120箇所が、2000年代までに3箇所にまで減少している。内訳は耕作放棄、谷底の開発（墓地建設など）、地形変化（埋め立てなど）である。西広さんは「谷津田の価値一つ一つは小さいかもしれないが、積み重ねると立派なグリーンインフラになる」と語っている。グリーンインフラとは、自然の機能を防災などのインフラや社会問題の解決に活用する考え方ということだ。さらに太陽光発電など再生可能エネルギー施設建設の環境への影響についても言及している。

田んぼを原点として、これからの環境問題やエネルギー問題を考えていくことが、とても素敵な視点ではない



すご田んぼ（潮来市）